

セッション2 モニタリング

07. 透析患者におけるインピーダンス心拍出量計エスクロンミニの使用経験

○荒井 祐人 (アライウト)¹⁾、安部 貴之¹⁾、石森 勇¹⁾、村上 淳¹⁾、金子 岩和¹⁾、
峰島三千男²⁾、花房 規男³⁾、土谷 健³⁾、新田 孝作⁴⁾

東京女子医科大学 臨床工学部¹⁾、同臨床工学科²⁾、同血液浄化療法科³⁾、同第四内科⁴⁾

【目的】

インピーダンス心拍出量計エスクロンミニ（エスクロン）を用いて、維持透析患者の治療中の一回心拍出量（SV）、心拍出量（CO）を連続モニタリングしたので報告する。

【方法】

73歳男性、透析歴5年、原疾患が糖尿病性腎症の症例に対してエスクロンを装着し、透析中のSV、COと1時間ごとの血圧を測定した。測定は連続した3回の治療で行い、除水量、愁訴、処置を記録した。

【結果】

3回の治療における除水量は、2.7～2.9Lとほぼ同量であった。また、すべての治療において血圧低下、生食補液、気分不快などの愁訴はなかった。

治療前値に対する血圧の変化率は、1時間目 0.99、2時間目 0.88、3時間目 0.86、4時間目 0.79、終了時 0.96 であった。

SVの変化率は、1時間目 0.91、2時間目 0.78、3時間目 0.76、4時間目 0.71、終了時 0.81 であった。血圧変化率との相関は $y=0.84x+0.04$ 、 $R^2=0.83$ であった。

COの変化率は、1時間目 0.90、2時間目 0.78、3時間目 0.78、4時間目 0.75、終了時 0.84 であった。血圧変化率との相関は $y=0.69x+0.20$ 、 $R^2=0.87$ であった。

【考察】

血圧の変化率とSV、COの変化率は高い相関が認められた。このことから、エスクロンを用いて透析中の循環動態の連続監視を行うことは、血圧低下など愁訴が多い患者で特に有用と考えられた。